小 学 校

平成２５年度

教育研究員研究報告書

道　徳

東京都教育委員会

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究仮説・・3

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　研究内容・・3

１　基礎研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２　調査研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

３　授業研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

４　実践事例

（１）第５学年　主題名：自分の夢や目標に向かって　１－（２）希望・努力　・・・・・・・・8
資料名：「二人の夢がかなった！」

（２）第１学年　主題名：友達を思う心　２－（３）信頼・友情　・・・・・・・・・・・・・・１２
資料名：「二わの　ことり」

（３）第５学年　主題名：自分にできることを見付ける　４－（３）役割・責任　・・・・・１６
資料名：「どこかでだれかが見ていてくれる」

（４）第１学年　主題名：あたたかいこころで　２－（２）思いやり・親切　・・・・・・・２０
資料名：「はしのうえの　おおかみ」

Ⅵ　研究の成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

研究主題

自己の生き方についての考えを深め、未来への夢や希望につながる道徳の時間
～自己や他者との関わりを豊かにする指導を通して～

Ⅰ　主題設定の理由

昨今、いじめ問題が深刻化し、児童の生命を尊重する心や自尊感情の乏しさ、規範意識の低下、人間関係を築く力や社会性の育成が不十分といった数多くの課題が指摘されている。こうした課題の大きな要因として、核家族化や少子化といった児童を取り巻く環境の変化がある。さらに、他者や社会との関わりが弱くなっており、人間関係が希薄化していることが挙げられている。

実際の学校生活においても、友達と上手に付き合うことができず、自分の気持ちを素直に伝えたり、他者の気持ちに共感し認め合ったりすることが苦手な児童が多く見られる。集団の中でよりよく関わり合うことができない児童が増えている。相手の立場や思いを尊重し、自分との共通点や相違点を感じながら、互いのよさを認め合える人間関係が醸成されてこそ、よりよく生きる力が育まれると考える。

また、平成２５年４月に東京都教育委員会より示された東京都教育ビジョン（第３次）によると、将来の夢や希望がもてない子供が少なからずいるという実態が明らかになっている。友達と共感し合い、認め合った経験が少ないため、他者との関わりの中で自己を正しく理解する力が育まれていない。こうした問題が自分に対する自信を喪失させ、児童の未来への夢や希望を萎縮させてしまっているのではないだろうか。

このような社会状況において、学校の教育活動全体を通じて豊かな心を育む道徳教育の重要性は一層高まっており、その要となる道徳の時間の更なる充実が強く求められている。

一方で、平成２５年２月の教育再生実行会議の第一次提言では「現在行われている道徳教育は、指導内容や指導方法に関し、学校や教員によって充実度に差があり、所期の目的が十分に果たされていない状況にある。」という課題が挙げられている。授業者のねらいとする道徳的価値についての分析が不十分であったり、道徳の時間において、基本発問や中心発問、学習活動の意図が曖昧であったりするようでは、日々の授業が道徳的価値の表面的な理解のみに終始し、形骸化につながる。このような授業では、児童は、友達の多様な感じ方・考え方に触れることができず、自分との関わりで道徳的価値を捉えることができない。

こうした現状と課題を踏まえ、他者と主体的に関わり合うことを通して、自己をより深く見つめ、未来につながる自己の生き方を実現していこうとする思いを培う道徳の時間を考案・実践していくために、本研究主題を設定した。

研究主題にある「自己の生き方についての考えを深める」とは、道徳的価値の自覚を深め、道徳的価値を自分との関わりで考えるということをより大切にしている。児童は、道徳的価値の自覚を深める過程で、自己の生き方についての考えも深めているが、授業者自身が道徳的価値の自覚をより深いものとし、自己の生き方についての考えも深められるよう、意図的な指導法を基に展開することが重要であると考える。

また、「未来への夢や希望」とは、他者や社会と自分との関わりで道徳的価値を捉え、自己理解を深めることで、現在の自己の生活の状況及び将来の生き方に関する考えを明確に捉え、自己の生き方を実現していこうとする思いや願いのことを意味する。

このように自己の生き方についての考えを深め、「未来への夢や希望」につなげていくためには、道徳の時間における、自己や他者との「関わり」が必要不可欠であると考える。その際、自分の気持ちを一方的に主張したり、自己の体験を形式的に振り返ったりするだけでは、深い自己理解には至らない。資料の登場人物に託して自らの思いを語ったり、友達の多様な感じ方・考え方を踏まえて、自分自身を深く見つめたりする自己や他者との関わりの上にこそ、真の「未来への夢や希望」が育まれる。

以上を踏まえ、研究主題に迫るために「ねらいとする道徳的価値に関する実態把握」、「発問構成の工夫」、「学習活動の工夫」を三つの柱として、研究を進めることとした。

Ⅱ　研究構想図　（小学校）

社　会　状　況	児　童　の　実　態	小学校学習指導要領　道徳
・ボランティア意識の向上 ・規範意識の低下 ・自尊感情が低い ・人間関係を築く力や社会性が乏しい。	・ボランティア活動へ意欲的に参加する等、互いに助け合おうとする意識が高い。 ・自尊感情が低く、自己を認めることができず、自己や社会の未来に夢や希望をもつことが難しい。	・道徳的価値についての理解を深め自己や社会の未来に夢や希望をもたせる。 ・道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

研究主題		
自己の生き方についての考えを深め、未来への夢や希望につながる道徳の時間 ～自己や他者との関わりを豊かにする指導を通して～		
目指す児童像		
自分や他者との関わりを通して、自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする児童		
低学年	中学年	高学年
自分や他者との関わりの良さを感じることができる児童	身近な人間関係の中で、今の自分を見つめることができる児童	社会や集団の一員として、自己の生き方を考えることができる児童
研究仮説		
自己や他者との関わりを意識した発問構成や学習活動を工夫することによって、児童の自己の生き方についての考えが深まり、未来への夢や希望に向かう心を育てることができるだろう		
基礎研究	調査研究（児童対象）	
○「未来への夢や希望」の定義をどう捉えたか ○「関わり」の定義をどう捉えたか ○実態調査の手法についての情報収集	○自分の将来の夢や希望についての考えに関する意識調査 ○自己や他者との関わりに関する実態調査	
研究の柱		
1　ねらいとする道徳的価値に関する実態把握	2　発問構成の工夫	3　学習活動の工夫

授業研究		
学　年	主題名　内容項目	資料名
1	友達を思う心　　２－（３）信頼・友情	二わのことり
1	あたたかいこころで　２－（２）思いやり・親切	はしのうえのおおかみ
5	自分の夢や目標に向かって　　１－（２）勤勉・努力	二人の夢がかなった
5	自分ができることを見つける　４－（３）役割・責任	どこかでだれかが見ていてくれる

Ⅲ　研究仮説

自己や他者との関わりを意識した発問構成や学習活動を工夫することによって、児童の自己の生き方についての考えが深まり、未来への夢や希望に向かう心を育てることができるだろう。

Ⅳ　研究の方法

1　基礎研究	2　調査研究	3　授業研究
○自己の生き方についての考えを深めることについて ※中学校との共同研究 ○未来への夢や希望に関して ※中学校との共同研究	○夢や希望に関する意識の実態調査（児童対象） ○自己や他者との関わりに関する実態調査（児童対象）	○関わりを豊かにする指導の工夫（４校で４回実施） 1　ねらいとする道徳的価値に関する実態調査 2　発問構成の工夫 3　学習活動の工夫

Ⅴ　研究内容

1　基礎研究

自己の生き方についての考えを深め、未来への夢や希望に向かう心を育てるために、自己や他者との関わりがどのように影響するのかを、学習指導要領・参考文献・先行研究を基に考察し、研究員間で共有化を図った。

【研究員間で共有化した事項】

○　自己の生き方についての考えを深める

小学校学習指導要領解説道徳編には道徳の時間の目標の一つとして「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める」ことが示されている。そこには「人格の基盤を形成する小学校の段階においては、児童が道徳的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である」「児童は道徳的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えも深めている」とある。つまり、児童の自己の生き方についての考えを深めるためには、他者との関わりを通して、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりでより深く捉えられるような授業を構成する必要があると考える。

○　道徳的価値の自覚について

道徳的価値を自覚させるために大切な（1）～（3）の事柄について、小学校学習指導要領を精読した上で、専門書や先行研究を基に私たちは以下のように解釈した。

（1）道徳的価値についての理解

価値理解：道徳的価値は大切であること。

人間としてよりよく生きる上で、大切なことであると理解すること。児童が道徳的価値の大切さについて十分に理解できている場合においても、道徳の時間を通して、より実感をもってそれらの大切さを理解させることが求められる。

人間理解：道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと。

人間としてよりよく生きる上で大切なことを理解していても、人間は常にそれらを行動として実現できているとは限らない。こうした人間の弱さについて理解させること。

他者理解：道徳的価値の実現に向けて多様な感じ方・考え方があること。

道徳的価値を具体的な行為として実現する場合の感じ方・考え方は一つではなく、多様であることを理解させる。

（２）自分との関わりで道徳的価値を捉える。併せて自己理解を深めていくようにする。

上記の道徳的価値の理解（価値理解・人間理解・他者理解）を図る際に重要なこととして、一人ひとりの児童が自分との関わりで道徳的価値を捉えることが挙げられる。児童が道徳的価値を他人事ではなく、自分のこととして捉え、これまでの自分の経験を振り返り、そのときに感じたこと、考えたことなどと照らし合わせながら考えることが大切である。このような時間を通して、児童は道徳的価値の理解とともに自己理解を深めることになる。

（３）道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること。その中で自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。（小学校段階においては、自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにする。）

（小学校学習指導要領解説道徳編より抜粋）

ねらいとする道徳的価値について、自分自身は現在どのような状態にあるのかを明確にすることで、的確な現状分析が可能となる。的確な現状分析は、正しく自分自身を見つめ、自分なりに道徳的価値を発展させていくことへの思いや課題を培うことにつながる。

また、児童が「自己の生き方についての考えを深める」とは、教師がこの道徳的価値の自覚を深める学習指導過程を工夫する中で、「児童がこれまでの自分や現在の自分を深く正しく見つめる」こととした。「これまでの自分や現在の自分を深く見つめる」とは、例えば、

- 児童がよりよくなろうとする自分を感じ、自己を肯定的に受けとめる。
- 友達や身近な人との関わりの中で、自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめる。

という姿である。自己の生き方についての考えを深めるとともに、未来への夢や希望をもち、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深められるようにしたい。

【研究主題に関わる言葉の定義】

○ 未来への夢や希望

未来の自己の生き方として実現していこうとする思いや願いのことを意味する。自分との関わりで道徳的価値を捉え、自己理解を深めることで、現在の自己の生活及び将来の生き方に関する思いや課題を明確に捉えることができると考える。

○ 自己との関わり

「自己との関わり」とは、本時のねらいとする道徳的価値と自分の経験、自分の捉える道徳的価値との関わりとした。道徳的価値の自覚を深める学習指導過程においては、自分との関わりで道徳

的価値を捉え、そのことに合わせて自己理解を深めることができるよう指導することが大切である。その道徳の時間のねらいとする価値について、自分の経験や自分が捉える道徳的価値と照らし合わせてじっくりと考えさせたい。未来への夢や希望をもつためには、欠かすことのできない活動である。

○　他者との関わり

「他者との関わり」とは、道徳の時間における友達や教師との関わりとした。他者理解（道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること）を進める上で、大切にしたいのが友達や教師との豊かな関わり合いである。自分以外の他者の多様な感じ方、考え方に触れ、肯定的に受け止め合う活動を大切にしたいと考えた。

２　調査研究

【調査目的】児童の将来への夢や希望、他者との関わり方に対する意識を調査する。

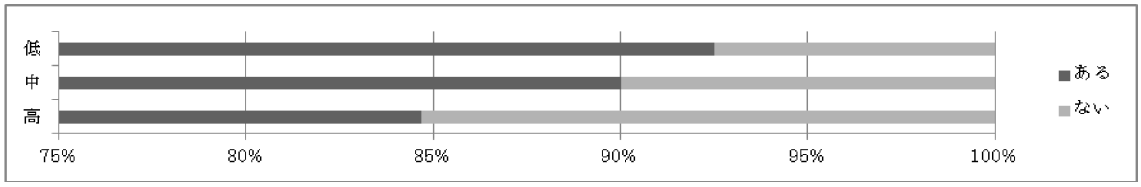
【調査対象】都内小学校 12 校の児童　低学年 240 名、中学年 220 名、高学年 412 名

【調査方法】質問紙法（記述式・選択式）

（１）　将来の夢や希望についての質問（記述式・選択式）

ア　進路について

「将来、なりたい職業はありますか。」



イ　生き方について

「あこがれる生き方は、ありますか。あるとしたらどんな生き方ですか。」（主な回答）

「優しい・親切」「明るい・楽しい」「正直・素直」「頭がよい」「スポーツが得意」

「お金持ち」「自分らしく」「後悔しない」「世界で活躍する」

「人の役に立つ」「人を幸せにする」（「具体的な人物を挙げ」～のような）

ウ　夢や希望の捉え方について

「友達に次のように言われたら、どんな言葉をかけてあげますか。」（主な回答）

低学年　　「大きくなったら、サッカー選手になりたいんだ」

「がんばってね」「君ならできるよ」「一緒にがんばろう」

中・高学年「オリンピックに出て金メダルを取りたいんだ」

「無理だと思うよ」「本当にとれるのかな」「簡単に言えることじゃないよ」

〈将来の夢や希望についての考察〉

・「なりたい職業について」低学年では「ある」の数値が 92.5%だったのに対し、高学年では 84.7%となっている。また、「ない」と回答したうちの 56%が、「やりたいことが見付からない」「自分に合うものがない」「今が楽しければいい」等を理由に挙げている。低学年はよく見聞きする身近なあこがれや夢を、高学年は具体的な職業を挙げる児童が多かった。学年が上がるにつれて、知識や経験が豊かになり、幅広い職業に目を向けているとともに、実現が困難であると感じている児童が多くな

っていることによって「ない」と回答する児童の数値が高くなっていると考えられる。

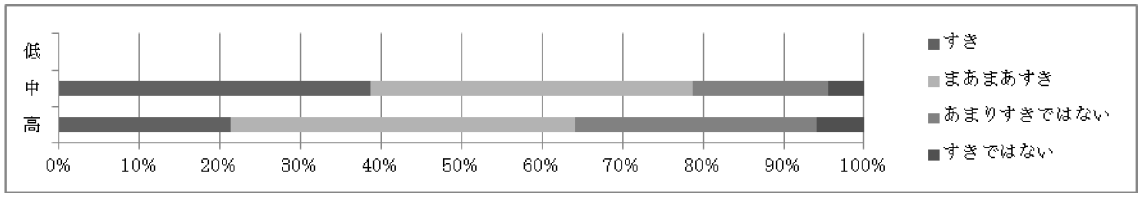
・「あこがれる生き方について」中学年では、自分自身に関する記述が多い。高学年では、「人のために」という他者を意識した記述が増えている。また「～のような」といった具体的な人物も挙げている。しかし、自分がそこに近付けるかということには、不安も抱えている。

・「友達の夢や希望について」低学年では、相手に寄り添い、共に歩む前向きな言葉掛けが 100%であるのに対して、高学年では励ましや応援の言葉掛けに加え、否定的な回答も多いことが分かる。

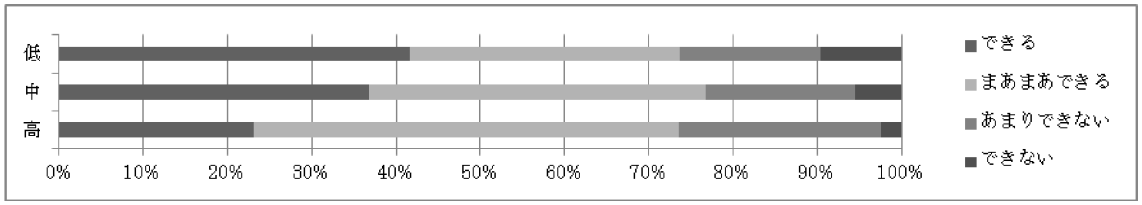
・自己や他者を肯定的に受け止めることができない児童が、高学年になるにつれて増えているという結果から、友達をはじめ、他者と共感し合い、認め合う経験の必要性を感じる。

（２）　自己や他者との関わりについての質問（選択式）

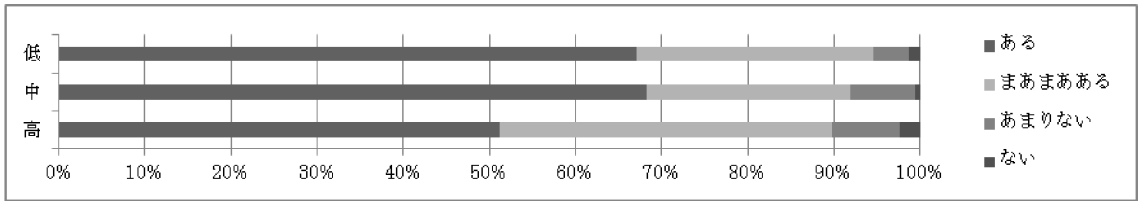
ア　自分の気持ちを書いたり、話したりすることは好きですか。



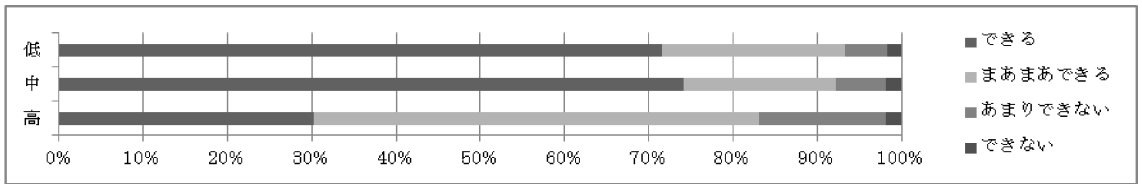
イ　自分の気持ちや考えを相手に伝えることはできますか。



ウ　友達の考えを聞いて、勉強になったことはありますか。



エ　お互いの気持ちや考えを話し合うことはできますか。



〈自己や他者との関わりに関する考察〉

・質問「ウ」については、「ある」、「まあまあある」をプラス傾向と考えると、全体として児童は自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする活動が嫌いでないことが分かる。

・質問「ア」では、プラス傾向の回答が中学年は 80%、高学年は 70%を下回っている。また、質問「イ」では、低、中、高学年ともに 80%を下回っている。自分の考えがまとまらない、自信がもてず、うまく伝えることができないと考えていることが読み取れる。

・一方、質問「ウ」では、全体の 90%の児童が、質問「エ」では全体の 80%以上の児童が、友達の考えを勉強になったと答えている。児童は学習場面において友達との関わりを重視していると考えることができる。
・どの質問に関しても学年が上がるにつれて、「ある」や「できる」の割合が減っている。話す内容をよく吟味し、話合いの工夫を取り入れて、話し合うことのよさを児童に実感させて行く必要がある。

３　授業研究

自己の生き方についての考えを深めることや未来への夢や希望に関する基礎研究及び児童への質問紙法で実施した調査研究を基に、４回の授業研究を行った。また、研究主題に迫るために「ねらいとする道徳的価値に関する実態把握」、「発問構成の工夫」、「学習活動の工夫」の３つを研究の柱とした。

〇ねらいとする道徳的価値に関する実態調査

道徳の時間において児童の道徳的価値の自覚をより深いものとするためには、児童が本時のねらいとする道徳的価値において現在どのような状況にあるのかを、授業者ができる限り詳細に把握しておくことが重要であると考える。日常の道徳教育におけるノート、ワークシート、作文、日々の行動観察を基に、ある程度は児童の実態を捉えることができる。しかし、児童自身がねらいとする道徳的価値について、どんな感じ方・考え方をしており、自分自身の現状をどのように捉え、自己を認識しているかという詳細までは把握することができない。そこで、授業を構成する際に、ねらいとする道徳的価値に関する実態調査を行い、授業者が把握している実態と児童自身の自己認識を明確にすることで、研究主題に迫る授業を考案・実践することができると考えた。

〇発問構成の工夫

発問を構成する際、児童の実態と資料の特質を踏まえた発問を行うために、上記の実態調査を活用する。このことで、児童に①道徳的価値の大切さを理解させたいのか、②道徳的価値に関わる多様な感じ方・考え方に出会わせたいのか、③道徳的価値の実現の難しさを考えさせたいのかという指導者の明確な意図に基づいた発問を練り上げることが可能となる。また、児童の実態を踏まえているからこそ、一つ一つの発問が児童にとって考える必然性があり、切実感のあるものとなり、他人事ではなく自分との関わりの中で道徳的価値を捉えさせることにつながると考える。

〇学習活動の工夫

自己理解は、自己や他者との関わりを通して、より一層確かなものになると考える。そのため、道徳の時間において、児童の実態と資料の特質を生かした発問構成を行うとともに、自己や他者との関わりを豊かにさせる多様な学習活動を取り入れることで、より深い道徳的価値の自覚につながると考えた。

4　実践事例

（1）第５学年

①　主題名　　「自分の夢や目標に向かって」１―（２）希望・努力

②　資料名　　「二人の夢がかなった！」

③　研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

調査内容：夢や目標と努力に関する意識調査

調査項目：①「夢や目標はあるか。」②「夢や目標に向かって努力していることはあるか。」
③「目標が達成できないときどうするか。」
④「努力している人を見て、自分もがんばろうと思うことはあるか。」

考察：①では、８３％の児童が何らかの夢や目標をもっていること、夢や目標をもつことができていない児童が１７％いることが分かった。②では、夢や目標をもっている児童の７０％が何かの努力をしているが、３０％は、漠然と夢や目標を抱きながら、行動には移せていないことが分かった。③では、できるまであきらめずに努力する児童が５３％、目標を変更したり、あきらめたりする児童が４７％であることが分かった。④では、８６％の児童が、友達の努力する姿を見て、自分も頑張ろうと思う体験をしていることが分かった。以上の結果から、多くの児童が夢や目標をもち、達成したいと感じながらも、途中であきらめるケースが多いことが分かった。原因としては、何をどのようにすればいいのか分からず、行動に移せないでいること、また、友達の努力を目の当たりにしながらも、自分の行動に生かすことができていないことが考えられる。

【発問構成の工夫】

上記の意識調査から、「友達の努力」を「自分との関わり」に置き換えて考え、「自分なりの努力の仕方」を見付けることができるような発問構成をする。

中心発問では、本時のねらいとする道徳的価値（努力と努力しようとする心情がいかに大切であるか）を理解させるために「２００本以上の譜読みテープは、今も大切な宝物と語るのはなぜか。」と問う。

展開後段では、他者の多様な成功体験、失敗体験から、自分との関わりを感じ、自己を振り返ることができるよう、「今までに、努力してよかったこと・努力したけどうまくいかなかったこと」について友達同士で話し合う活動に取り組ませる。

【学習活動の工夫】

○具体物の活用…「人間理解」を深めるため、コンクールの写真や実際の演奏などを活用する。

○カードの活用…話合いの際、友達の考えに対して自分の考え（どうして？・わかる！・すごいよ・もっと教えて）を明らかにして明確に伝えることができるカード（「語り合いカード」）を活用する。

○「心たくましく」の活用…終末では、東京都道徳教育教材集「心たくましく」に掲載されている「アランの幸福論」を紹介し、「道徳的価値の自覚」を更に深めることができるようにする。

④　ねらい

目標に向かって、粘り強く努力しようとする心情を育てる。

⑤　本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★　工夫□
導入	1　辻井さんの経歴を知り、そのピアノの演奏を味わう。 ○辻井さんの演奏を聴いて感じたことを発表しよう。 ・すごい演奏だ。 ・どれだけ練習したんだろう。 ・どうやって練習したんだろう。	□辻井さんが目が不自由であることや、すばらしい功績を挙げたことが分かりやすいように、コンクールの写真を掲示するとともに、実際の演奏を聴かせる。
展開	2　資料を読んで話し合う。 ○なぜ辻井さんは、「２００本以上ある譜読みテープは、今も大切な宝物」と語るのでしょう。 ・あの時の頑張りがあるから、今があると思う。 ・粘り強くやりとげた証拠のテープだから。 ・自分をピアニストにしてくれたテープだから。 ・あのときを思い出すと今も頑張れるから。	★結果より、その「努力した過程」が大切であることを押さえる。 ★「努力」が今日のキーワードであることを押さえる。
	3　「努力」をテーマにして今までの自分を振り返る。 ○「努力してよかったこと」「努力したけどうまくいかなかったこと」を振り返ってエピソードを書こう ・野球で休日も頑張って、３位になることができた。 ・朝も夜も練習して臨んだキックベース大会だったが、一回戦で負けた。 ○振り返って思い出した「努力のエピソード」を班で紹介し、話し合おう。	★「努力」という価値そのものについて考えを深めることができるように「吹き出し」を掲示する。 □「感想・共感・質問」などを相互に交流するようにさせる。 ★班の中で、一番話題になったエピソードを掲示し、全体で共有できるようにする。
終末	4　教師の説話を聞く 5「努力」について自分と向き合い、考える。 ○「自分」、「努力」というキーワードを使って、努力することについて感じたことを書こう。	□「心たくましく」の一説「アランの幸福論」を紹介する。 ★ここでは、目標ではなく「努力という価値」と「自分自身」ということに視点を絞って書くよう指導する。

⑥　評価

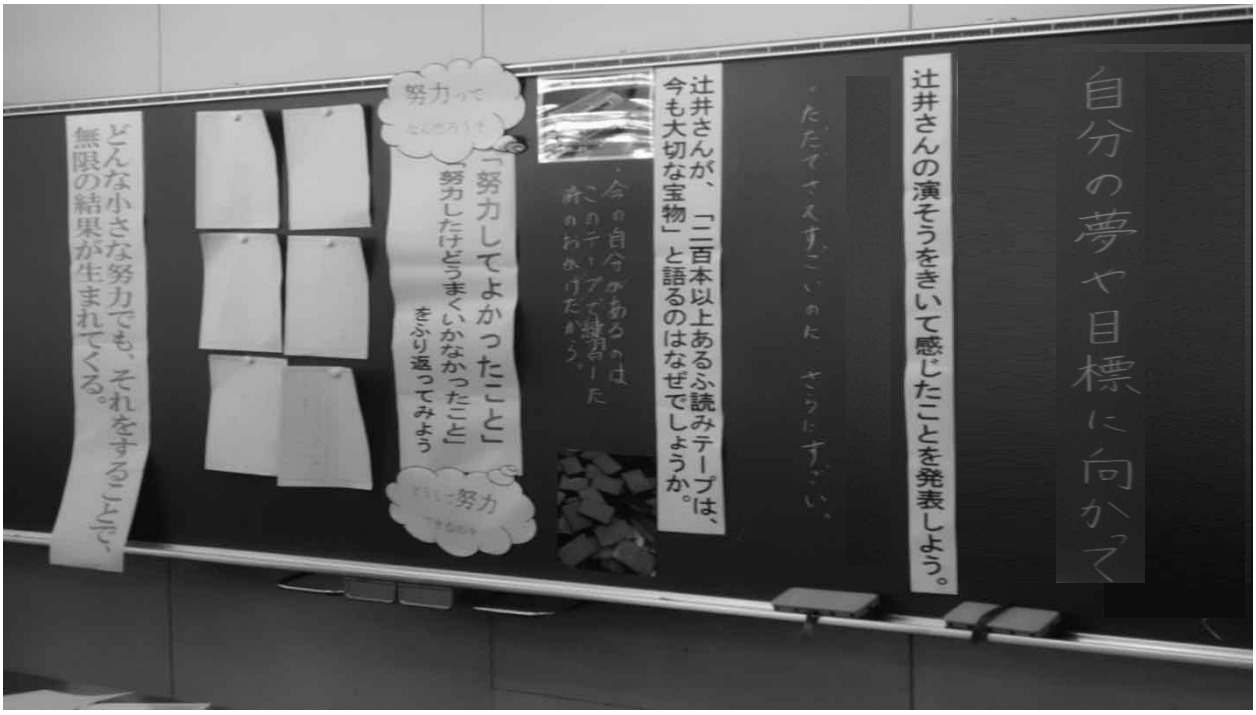
・努力の大切さについて理解を深めることができたか。

・目標に向かって、粘り強く努力しようとする心情を育むことができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	T：辻井さんの演奏を聴いて感じたことを発表しよう。 C：目が見えていても難しいのにすごい。C：どれだけ練習したんだろう。 C：どうやって練習したんだろう。　　C：いっぱい練習したんだろうなぁ。
展開	T：なぜ「２００本以上ある譜読みテープは、今も大切な宝物」と語るのでしょうか。 C：いろいろな賞がとれたのは、譜読みテープがあったから。 C：今の自分があるのは、この譜読みテープで練習をしたおかげだから。 C：練習は大変だったけど、このテープで練習したことが上達につながったので、自分の宝物になっているんだと思う。 C：努力をした思い出がたくさんつまっているから、今でも大切なんだと思う。 C：ピアニストとして世界で認められるようになった今の自分があるのは、この譜読みテープでの練習があったから。 T：このテープは、努力の証なんだね。今日は、この「努力」ということについてみんなにも考えてもらいたいと思います。 --- T：「努力してよかったこと」「努力したけどうまくいかなかったこと」を書いてみよう。 T：時間は３分です。 T：それでは、伝え合いタイムにします。グループの隊形にしましょう。今日は、班長さんが司会者です。始めてください。 ※班ごとに分かれ、司会者を中心に話合いを進める。発表者の机上に目印を置き、発表を行う。聞き手は「カード」を提示しながら感想や質問を述べ、語り合いを行う。 T：友達の話の中で心に残ったことを発表してください。 C：青梅マラソンで練習をがんばり、最後まで走りきれたＫさんがすごいと思います。 C：H君が、２分の１成人式でたくさん練習して、家族を喜ばせた話が心に残りました。 C：T君が、サッカーの練習を毎朝やっている話を聞いて、上手な訳が分かりました。 C：漢字の５０問テストの前にたくさん練習をして１００点をとれた話を聞いて、自分の練習は足りないことが分かりました。 C：Iさんが、金管バンドの練習で、できなかったリズムをたくさん練習してできるようになった話を聞いてすごいなと思いました。 C：W君が野球の大会で、休みなく練習したのにすぐに負けてしまった話を聞き、自分にも同じ経験があったので心に残りました。
終末	T：「心たくましく」を開きましょう。「幸福論」という文を紹介します。 T：「自分」「努力」というキーワードを使って感想を書こう。

⑧　板書



⑨　成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

・本時でねらいとしていた道徳的価値（希望・努力）に関する調査を話合いに生かすことができ、活発に意見を交流することができた。

【発問構成の工夫】

・資料の中心発問に対する児童の意見を、その後の話合い活動につなげたことで、「努力」という価値からぶれることなく授業を展開することができた。

【学習活動の工夫】

・話合いを行う際に、語り合いカードを活用したのは、児童の実態に合っていて有効だった。児童が、「努力」という価値について真剣に話し合う姿が見られた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

・実態調査で「夢や目標がない」と答えた児童が、本時でどう変容したのかを検証する必要がある。実態調査を生かし工夫する必要があった。

【発問構成の工夫】

・辻井さんが大変な努力をして現在に至ったことについて、もっと触れる必要があった。

【学習活動の工夫】

・導入で演奏を聴かせたために時間が掛かりすぎた。後段を充実させるためには時間の短縮が必要だった。

・カードを活用したのは良い。本音で語り合う学級の雰囲気作りのために、日常の学級経営が重要である。

（２）第１学年

①　主題名　友達を思う心　２－（３）信頼・友情

②　資料名　「二わの　ことり」

③　研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

調査内容：友達との関わりについての意識調査

調査項目：①「普段、友達とどんなことを一緒にしているか。」②「友達がいてよかったと思うのはどんな時か」③「あなたにとって、友達とはどのような人か。」

考察：①では、児童が友達との関わりをどのような場面で想起しているか調査した。「休み時間に友達と一緒に遊ぶ場面」を想起している児童が多く見られた。友達と楽しく過ごし、主体的に関わる時間として想起しやすかったと思われる。しかし、実際は、学校生活のあらゆる場面で迷いや葛藤を乗り越えながら、友情を深めている。そのことに気付くことができるようにしたい。

②③では、児童の友達に対する意識について調査した。「友達のよさ」を「仲良く遊んだり、楽しい時間を過ごしたりすること」と捉えている児童が多い。また、「〇〇してくれる」という親切な行為や言葉に「友達のよさ」を感じている児童も多い。本時では、一歩進んで、相手を思い、助け合うことによって、友情が深まっていくことを感じ取らせるようにする。

【発問構成の工夫】

上記の意識調査から、友達のよさを「一緒にいて楽しい存在」、「やさしくしてくれる存在」と捉えている児童が多いことから、「相手を思い、助け合うことのよさ」について考えられる発問構成をする。

中心発問では、相手の気持ちを思うこと、行動することで、互いの間に流れる温かい気持ちから友達のよさを感じ、友情についての価値を深めさせたいと考え、「涙を流して喜ぶやまがらを見て、みそさざいは、どんなことを思いましたか。」と発問する。

展開後段では、これまで、友達のことを考えたり、行動したりした自分の姿を振り返り、自分との関わりで道徳的価値を捉えられるようにしたいと考え、「友達のことを思ってこんなことをしたよ、ということはありますか。また、その時はどんな気持ちでしたか。」と問う。

【学習活動の工夫】

〇ハンドサインの活用…展開前段の話合いの場面では、自分の立場を明確にし、より主体的に互いの考えを交流し、話合いを深めるさせる。

〇資料提示の工夫…本時では、黒板シアターで資料を提示することにより、みそさざいややまがらの関係やそれぞれの場面を捉えやすくし、資料に浸れるようにする。

〇板書の工夫…板書でみそさざいの迷いが浮き彫りにすることによって、道徳的価値は大切であるが、実現することは難しいことを感じ取りながら、価値の自覚を深めたい。

〇役割演技の活用…みそさざいとやまがらの気持ちにより共感させるようにする。

④　本時のねらい

友達のよさを実感し、仲良く助け合おうとする心情を育てる。

⑤　本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★　工夫□
導入	1　「友達との関わりについての意識調査」の結果を知る。 ○クラスの友達が「友達がいてよかったな。」と思う時は、このような時です。 ・一緒に遊べる・ひとりぼっちの時に誘ってくれる ・大丈夫？と聞いてくれた・ありがとうと言ってくれた時	★児童の友達に対する思いについて意識調査の結果を知らせ、友達の思いを知るとともに、友達について考えていくことに意識を向けさせる。
展開	2　資料「二わの　ことり」を読んで話し合う。 ○みそさざいは、うぐいすの家へ行くか、やまがらの家へ行くか迷っていました。このときどんなことを考えていたでしょう。 ・うぐいすさんの家は、梅の林にあって、きれいで明るい。みんなも行くようだ。 ・やまがらさんの家は、遠い山奥にある。 ・やまがらさん、一人じゃ、かわいそうだ。 ・せっかくの誕生日なので、お祝いしてあげたい。 ○やまがらのことが気になりだしたみそさざいは、どんなことを考えていたでしょう。 ・一人ぼっちでさみしいだろうな。心配だな。 ・今からやまがらさんの所へ行こうかな。 ◎涙を流して喜ぶやまがらさんを見て、みそさざいさんはどんなことを思いましたか。 ・喜んでくれてよかった。・悲しい思いをさせてごめんね。・これからもずっと友達でいよう。	□黒板シアターによる資料提示で、状況を分かりやすく捉えさせ、登場人物の気持ちに寄り添えるようにする。 □皆が行き、楽しそうなうぐいすの家に行きたい気持ちとやまがらを気遣う気持ちを十分に考えさせる。 □迷う気持ちを対比して板書することで、みそさざいの葛藤に共感させる。 □やまがらのことが気になりだしたみそさざいの気持ちを捉える。 □役割演技によって、二羽の間に流れる温かな思いを感じとらせる。
	3　自分の生活を振り返って考える。 ○「友達のことを思ってこんなことをしたよ。」ということはありましたか。その時は、どんな気持ちでしたか。 ・休み時間に遊ぼうと誘った。 ・転んでいる友達を保健室に連れて行ったよ。	★想起しづらい児童には、導入をヒントに振り返らせたり、教師から普段の行動について触れたりして思い起こさせるようにする。
終末	4　「友達はいいもんだ」の歌を聴きながら、日々の友達との関わりの姿をスライドショーで見る。	★友達っていいなという思いを高める。

⑥　評価

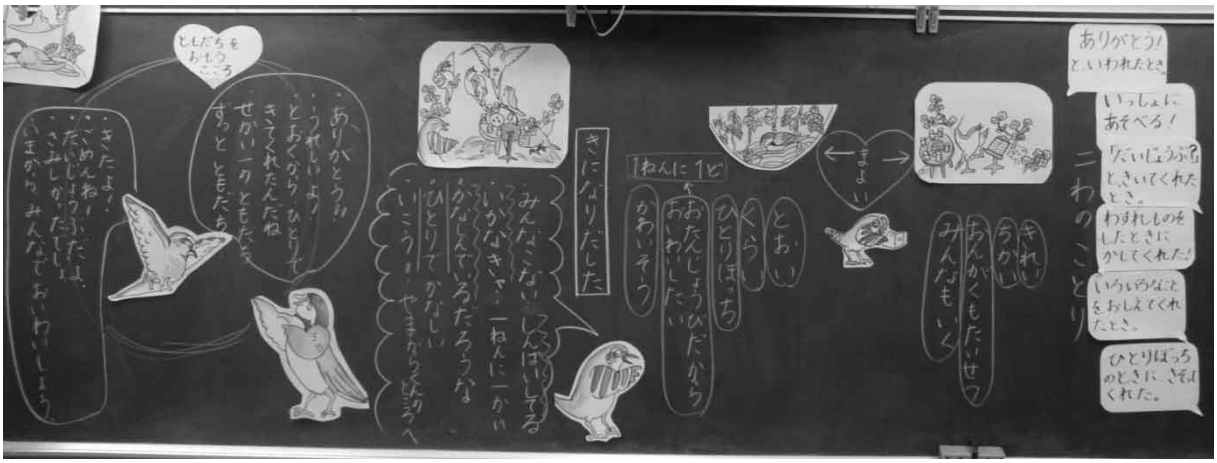
・涙を流して喜ぶとその姿を見たみそさざいの気持ちを考えることができたか。

・これまでの生活の中で、友達を思って行動したことについて振り返ることができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	Ｔ：入学してたくさんの友達ができましたね。みんなが「友達がいてよかったな。」と思う時は、このような時です。（意識調査の結果を示す。）
展開	Ｔ：みそさざいは、どちらへ行こうか迷っています。どんな気持ちなのでしょう？ Ｃ：お誕生日だから、お祝いしてあげたい。でも、きれいで近い方にも行きたい。 Ｃ：やまがらさんの家は、暗いし、山奥にある。 Ｔ：やまがらさんの家には、友達がいっぱいいる？ Ｃ：いない。一人ぼっち。Ｃ：誕生日は一年に一度しかない。 Ｔ：この中で、自分の意見に近いものを２つ選んで手を挙げてください。 Ｔ：この中で、やまがらさんのことを考えている意見はどれかな。（意見を整理する） Ｔ：だけど、やまがらさんはうぐいすさんの家に行きました。そして、気になり出しました。みそさざいさんは、どんなことを考えていたのでしょう。 Ｃ：行かなきゃだめだ！ Ｔ：どうしてですか？ Ｃ：誕生日は一年に一度しかない。Ｃ：やまがらさんは、今頃、悲しんでいるだろうな。 Ｃ：みんながうぐいすさんの家に行くなら、ぼくはやまがらさんの家に行こう！ Ｔ：そして飛び立ったのです。 Ｔ：やまがらさんとみそさざいさんの役をやってもらおうと思います。 Ｃみそさざい役：お誕生日だから、遊びに来たよ！（やまがら役の児童に向かって走る。） Ｃやまがら役：ありがとう！！（足に抱きつく。） Ｔ：やまがらさん涙が出るくらいうれしかったのです。他に、どんなことを思ったでしょう？ Ｃ：うれしいよ。　Ｃ：遠いのに一人で来てくれてありがとう。 Ｃ：やっぱり、世界一のお友達だね。 Ｃ：二人しかいないから、みんなで行って一緒にお祝いしよう。 Ｔ：みそさざいさんの気持ちは言える？ Ｃ：遅くなってごめんね。もう大丈夫だよ。 Ｃ：やまがらさん、一人ぼっちだったね。ぼくが来たから大丈夫。 Ｔ：みんなもみそさざいさんみたいに、友達のことを思って、何かをしたことがありますね。その時の気持ちを書いてみましょう。 Ｃ：一人ぼっちの子がいたから、一緒に遊んだ。明るくて気持ちがよかった。 Ｃ：朝の支度が間に合わない人のところに手伝いに行けてよかった。 Ｃ：転んでいる子に声をかけた。どきどきした。 Ｃ：幼稚園の時、友達のおもちゃがなくなったから、作ってあげた。
終末	Ｔ：みんなの友達を思う心がたくさん聞けました。最後に見てもらいたいものがあります。「友達はいいもんだ」をかけます。いろいろ、友達のことを思い返しながら、見てください。（スライドショーを見る。最後は、一緒に友達はいいもんだを歌う。）

⑧　板書



⑨成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握について】

ねらいとする道徳的価値について、児童が現在どのような状況にあるのかを把握することにより本時のねらいを焦点化することができた。また、児童の意識の流れに沿って発問を構成することができた。

【発問構成の工夫】

ねらいとする道徳的価値に関する児童の意識の実態に合わせて発問を構成したことにより、自分との関わりで道徳的価値を捉えやすくなり、道徳的価値の自覚が深まった。

【学習活動の工夫】

・ハンドサインで、自分の立場を明示することにより、意見が教師対児童の一問一答にならないようにできた。児童は、友達の意見を意識しながら、話し合うことができた。

・黒板シアターによる資料提示により、児童が登場人物の関係や場面を把握しやすくしたことによって、児童は資料の世界に浸ることができた。資料提示の段階で、みそさざいに共感したり、疑問をもったり、児童は主体的に関わっていた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握について】

対等な立場であるべき友達に対して、「かわいそう」や「～してあげよう」という同情のような気持ちがあった。互いに理解し、仲良く助け合うというねらいに対して、このような実態を事前に把握し、授業に生かす必要があった。

【発問構成の工夫】

・同情の気持ちを含んだ発言に対して、友達を思う心に焦点を当てた発問などで切り返すことができればよかった。

・心情を問う発問で、「どんな気持ち？」「どんなことを考えていた？」「心の中は？」と立て続けに尋ねていることがあったので、発問の意図をより明確にして、一つに絞るべきであった。

【学習活動の工夫】

・役割演技では、役名に、演じた児童の名前を付け加えていたが、役になりきるために、また、純粋に役を対象として心情を考えるために、役名に児童の名前は加えるべきではない。

（３）第５学年

①　主題名　自分にできることを見付ける　４－（３）役割・責任

②　資料名　「どこかでだれかが見ていてくれる」

③　研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

調査内容：自分の役割に関する意識調査

調査項目：①「自分が担っている役割」②「どんな気持ちでその役割をこなしているか。」
③「委員会活動、クラブ活動、学級の当番での役割に関する自己評価」
④「目立たない役割を頑張っている友達が、周りにいるか。」

考察：①では、ほとんどが「書記」「黒板係」のように、役名のある、なくてはならない役割であったが、「盛り上げ役」「下級生に教える役」のように、自分で見出した役割の記述も見られ、多様な役割があることを認識している児童がいることが分かった。②では、26 人中 18 人の児童が「みんなが気持ちよく過ごせるように。」と集団や社会との関わりで捉えていることが分かった。③では、自覚した役割について責任をもって取り組もうとしていることが分かった。④では、26 人中 23 人が、目立たない役割を頑張る友達の存在を感じていることが分かった。

自分のために役割を果たしている児童に、「集団をよりよくしよう」という視点に気付かせたい。また、役割を果たすことが集団をよりよくすることにつながるということにも気付かせたい。

【発問構成の工夫】

上記の意識調査から、集団をよりよくするために「自分にできることを見付ける」ということについて考えさせ、道徳的価値の理解を図ることのできる発問構成をする。

中心発問では、目立たない「切られ役」に責任をもって取り組み続けた福本さんの気持ちを想像することで、集団のために責任をもって役割を果たすことのよさに気付かせるために、「『どこかでだれかが見ていてくれるんやな。』とつぶやいたとき、どんな気持ちだったでしょう。」と問う。

展開後段では、「みんなが気持ちよく過ごせるように。」と役割を果たしてきた児童は、更なる意欲につなげられるように、そのような思いに気付いていなかった児童はその思いに気付くことができるように、「みなさんは今まで、どんな気持ちでどのように自分の役割を果たしてきましたか。」と問い、さらにそのことについてどう思うかを考えさせる。

【学習活動の工夫】

○ハンドサインの活用…展開前段の話合いの場面で、友達の考えについて自分はどう考えるのか、視覚的に伝え合うことで、互いの考えを交流させる。

○相互指名…展開前段一つ目の基本発問、福本さんについて心に残った事について交流する場面で、一人ひとりの感想の違いに興味をもって聞き合えるよう相互指名を行う。

○児童の気付きを大切にした教師の説話…「どこかでだれかが見ていてくれる」ということは励みになる。みんなが見ていないところで自分にできることを見つけて頑張っていた友達への児童の気付きを紹介する。

④　本時のねらい

名もない端役を責任をもって演じ続けた福本さんの気持ちを考えることで、自分の身近な集団をよりよくするために自分の役割を自覚し、主体的に協力しようとする心情を養う。

⑤　本時の学習

	学習活動（主な発問○と予想される児童の発言・）	指導上の留意点★　工夫□
導入	1　自分たちの周りにはどんな役割があるか知る。 ○先日のアンケート結果を紹介します。 ○今日は、この「切られ役」の方のお話を読みます。	★任命された役割と自分で見付けた役割があることに気付かせる。 ★福本さんが出演している映画のワンシーンを見せ、資料への意欲付けを行う。
展開	2　資料「どこかでだれかが見ていてくれる―福本清三―」を読んで話し合う。 ○福本さんについて、心に残ったところはどんなところですか。 ・独自の切られ方をあみ出したところ。 ・４４年も端役を演じ続けたところ。 ○福本さんの気持ちに変化があったところについて話し合いましょう。萬屋さんに褒められてから、どんな気持ちで演じ続けたのでしょう。 ・端役であっても一生懸命やろう。 ・もっといい劇になるように頑張ろう。 ◎「どこかでだれかが見ていてくれるんやな。」とつぶやいたとき、どんな気持ちだったでしょう。 ・ここまでやってきて、本当によかった。 ・自分を見てくれている人がいて嬉しい。	★福本さんの気持ちになって聞かせる。 ★福本さんの気持ちの変化が分かるように、間や声の大小を工夫して範読する。 □相互指名をさせる。 ★補助発問「どうしてこんなに頑張れたのかな。」 ★劇全体を考え、切られ役に打ち込む福本さんの気持ちを考えることで、責任をもって取り組むということの意味を捉えさせる。 ★自分の役割を責任をもって全うした福本さんの気持ちを考えることで、責任をもって役割を果たすことの良さに気付かせる。
	3　今までの生活を振り返る。 ○みなさんは今まで、どんな気持ちでどのように自分の役割を果たしてきましたか。 ・委員会では、仕事を忘れると、みんなが困ると思って、忘れないようにやってきた。 ・もっとクラブ活動を盛り上げるために４年生に優しく声をかけていきたい。	□ワークシートに書かせてから発表し合う。 ★役割についての、今までの自分の行動や気持ちについて具体的に書かせる。
終末	4　教師の説話を聞く。	・自分の役割を果たしている友達への気付きを紹介する。

⑥　評価

・名もない切られ役に責任をもって演じ続けた福本さんの気持ちを考えることができたか。

・自分にできることを主体的にしようとする気持ちをもつことができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	Ｔ：どんな役割がありますか、というアンケートの結果をお知らせします。 Ｔ：今日はこの時代劇に携わった人の話です。
展開	Ｔ：福本さんのことについて、心に残ったことを教えてください。 Ｃ：自分も必要な役の一人なんだと、切られ方を工夫したところがすごい。 Ｃ：４０年以上、端役を演じてきたことがすごい。 Ｔ：どうしてこんなに頑張れたんだろう。 Ｔ：福本さんの気持ちに変化があったところについて話し合いましょう。萬屋さんに褒められてから、どんな気持ちで演じ続けたのでしょう。 Ｃ：主役が格好よく見える切られ方をしよう。 Ｃ：みんなで時代劇が成り立っているから、格好よく切られよう。 Ｃ：自分も工夫しよう。 Ｔ：どんな工夫ですか。 Ｃ：格好よく見える工夫。 Ｔ：自分をですか。 Ｃ：それもあるけど、時代劇自体を格好よくしたかった。 Ｔ：「どこかでだれかが見ていてくれるんやな。」とつぶやいたとき、どんな気持ちだったでしょう。 Ｃ：主役ではないけど切られ方がかっこよかったからかな。 Ｃ：自分なりの工夫をしてよかった。 Ｃ：あまり目立たなくても、いい演技をしていれば見ていてくれる人がいる。 Ｃ：端役でも見ていてくれるんだなぁ。 Ｃ：地味な役でもどこかでだれかが見ていてくれる。 Ｔ：ハリウッドに出たくて頑張ってきたのかな。 Ｃ：いいえ。違います。 Ｃ：時代劇をよくするため。 Ｔ：今まで自分の役割をどんな気持ちで、どのようにやってきましたか。 Ｃ：私は体育委員会の仕事「東ンピック（昼休みの縦割り遊び）」の準備を、みんなが楽しんでくれるといいなと思って毎週取り組んでいる。みんなが楽しそうに遊んでいるのを見ると、頑張って準備してよかったと思う。 Ｃ：集会委員で、みんなが楽しく喜んでくれるような遊びを考えた。終わった後、みんなが笑顔だったから、今度はもっと面白い遊びを考えたい。 Ｃ：学級活動の係活動では５年１組のみんなが楽しく盛り上げるようなことをしようとしてきた。ダンスを発表した時は、みんなも踊ってくれたのでよかった。
終末	Ｔ：今日はみんなの話をします。目立たないところで頑張っている人をみんなはよく見ていますね。みんなが教えてくれたことを紹介します。

⑧　板書

⑨成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握について】

・児童の言動に表れない思いが分かった。担任は児童の役割に対する頑張りは、「親切心」や「やらなければいけない」という思いから行っている傾向が強いと感じていたが、アンケート結果から、２６人中１８人（およそ７割）が、役割を頑張って果たすのは、「みんなが気持ちよく過ごせるように」など、集団社会との関わりの中で捉えていることが分かった。

【発問構成の工夫】

・展開後段では、委員会活動や学級での役割について、みんなが笑顔になったことを想起し、意欲につながったという振り返りをする児童が多く見られた。

【学習活動の工夫】

・ハンドサインを用いることによって聞く姿勢を育てることができた。

・ワークシートに書く時間を十分に取ることは、自分との関わりで振り返るのに効果的であった。「これまでの自分について今どう思うか。」という補助発問をワークシートに添えたことで、単なる経験の想起に終わらずに今後の生活への意欲を高めることができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握について】

・アンケートによって得られた「集団をよりよくするために」という児童の意識をより多くの児童に広げられるような指導に生かすことができればよかった。

【発問構成の工夫】

・場面発問で登場人物の気持ちの変化を丁寧に押さえ、中心発問での児童の考えをより深める必要があった。

【学習活動の工夫】

・ハンドサインや相互指名は児童自身が「使いたい」、「話し合うのに有効だ」と理解していることで生かすことができ、これらを取り入れる際にはそのような指導が大切である。

（４）第１学年

①あたたかいこころで

②資料名「はしのうえの　おおかみ」　２－（２）思いやり・親切

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

調査内容：思いやりや親切についての意識調査

調査項目：①困っているときに人から助けてもらったことはありますか。②誰からどんな時に助けてもらったことがありますか。③助けてもらった時にどんな気持ちでしたか。④困っているときに助けたことはありますか。⑤友達が忘れ物をした時に貸してあげたことはありますか。⑥お年寄りや年下の友達に親切にしたことはありますか。⑦あなたは誰にでも親切にすることは大切だと思いますか。

考察：①から③では、児童が友達や周りの人たちに親切にしてもらった経験を想起した調査を行った。どの児童も様々な人から親切にしてもらっていることを身をもって感じ、多くの児童が親切にしてもらって、「うれしい」「ありがたい」という気持ちをもっている。

④から⑥では、自分が親切にした経験を想起した調査を行った。児童の中には日頃友達に対して親切にしている児童が多いが、友達以外の人(地域の大人や公共機関等を利用した時に出会う人々)に対しては、進んで声を掛けにくいようである。困っている人に対して、温かい心で接することの大切さに気付かせるようにする。

【発問構成の工夫】

上記の意識調査の実態から、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育むために、道徳的価値の理解を図ることのできる発問構成をする。

中心発問では、橋の上でくまにおおかみが抱き上げられて、橋を渡らせてもらったことで「ありがとう」という気持ちをもつとともに、くまのように誰にでも優しい気持ちで渡らせれば、自分もみんなも温かな気持ちになるように「おおかみは、どんな気持ちでくまの後ろ姿を見ていたのでしょう。」と問う。

展開後段では、思いやりや親切について、今の自分とこれからの自分を見つめるために、「今まで、温かい気持ちで親切にしたことはありますか。それはどんなことですか。これから温かい気もちで親切にしたいことはありますか。それはどんなことですか。」と問い、これまでの嬉しかったことを想起し、その嬉しさを今後に広げ、高めていくために、自己を振り返らせる。

【関わりを豊かにするため学習活動の工夫】

○資料提示…自己との関わりで道徳的価値を捉えさせるために、資料が心に響き、登場人物に共感したり疑問をもてるように、主体的に資料に関わらせる。本時では、登場人物同士の関係や気持ち、場面を捉えやすくするために黒板シアターで提示した。

○役割演技…大道具の一本橋の上で、おおかみ役の児童がクマ役の教師に抱きかかえられることにより、演者の児童が登場人物の気持ちになって話すことができるようにした。それを見ている児童が自分の思いを比較・検討しながら共感し、違いに気付き、考えを深めさせるようにした。

○心のノート…思いやり・親切について具体的な場面を想起しやすくさせるために、学習してきたことを振り返りながら、自己を見つめさせた。

④本時のねらい

身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

⑤本時の学習

	学習活動（主な発問○・予想される児童の発言・）	指導上の留意点★　　工夫□
導入	1　児童の「こころのアンケート」から、子供たちが親切にしているときの様子や気持ちを知る。 ○みんなが困っている人を助けたり、助けてもらったりした時の気持ちを紹介します。 ・校庭で転んで助けてもらったときはうれしかった。 ・重い荷物をもったおばあさんがいたら、助けてあげたい。	★児童にアンケートの結果を話すことで、親切にされた場面を想起し、ねらいとする価値への方向付けを行う。
展開	2　資料「はしの　うえの　おおかみ」を視聴して話し合う。 ○小さな動物たちを通せんぼするおおかみは、どんな気持ちでしたか。 ・じゃまだ。　・いじわるをいうのは、たのしいな。 ・こまっている人を見るのは、おもしろい。 ◎おおかみは、どんな気持ちでくまの後姿を見ていたのでしょう。 ・くまは優しい。・優しくされると嬉しいな。 ・もういじわるは、しないよ。 ・優しくされたら、温かな気もちになったな。 ・誰にでも優しくしたいな。 ○おおかみはどんなことを考えて、小さな動物たちに橋を渡らせたのでしょう。 ・今までごめんね。　・みんなで仲良くこの橋を渡ろう。 ・みんなに優しくすると気持ちがいい。	★黒板シアターによる資料提示で、状況を分かりやすくし、登場人物の気持ちに寄り添うようにする。 ★話し合ったことを基にして、数名が役割演技を行い、おおかみの気持ちに共感させる。 ★おおかみに親切にしてもらった時の小動物たちの気持ちにも触れ、自分もみんなも温かい気持ちになったことに気付かせる。
	3　自分について振り返る。 ○今まで、温かい気持ちで、親切にしたことはありますか。それはどんなことですか。これから温かい気持ちで親切にしたいことはありますか。それはどんなことですか。 ・電車でお年よりに席を譲ったら、「ありがとう」と言われて嬉しくなった。　・小さな子に、順番を譲ったら、お兄さんみたいな気持ちになれた。　・これからも、たくさんの人に優しくしたい。	★「心のノート」P40 を読ませる。自分の体験を想起できない場合は、場面絵を見させて想起しやすくさせる。
終末	4　教師の説話	★親切にすると心が温かくなるという気持ちをもたせる。

⑥評価

・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付くことができたか。

・話合い活動に進んで取り組み、自分の考えを話し、友達の話を聞くことができたか。

⑦授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	T：アンケートでは、みんなが多くの人にもらったことが分かりました。友達、六年生、家族、先生、地域の方などいろいろな人に助けてもらいながら生活しています。
展開	T：意地悪をしているときのおおかみはどんな気持ちですか。 C：面白くて、楽しい。 C：楽しすぎて、もっとしたい。 C：邪魔だ、邪魔だ。 T：くまにわたしてもらっているときのおおかみはどんな気持ちですか。 ＜２人１組で、実際に動作をし、話し合う＞ T：くまの後ろ姿を見ているときのおおかみはどんな気持ちですか。＜役割演技＞ C：心があったかい気持ち C：やさしいなくまは。 C：なるほど、こういう方法があったんだ。 C：もう通せんぼをしないで、ああいう風にすればいいんだ。 T：おおかみはどんな気持ちでわたらせているのでしょうか。 C：やさしい気持ちになった。 C：うれしい気持ちが残っている。 C：通せんぼしないでわたらせたほうが楽しいな。 C：くまさんのまねをすると、いい気持ちになった。 T：優しくしてもらったうさぎさんたちはどんな気持ちでしょうか。 C：いろいろしてくれるからよかったな。 C：本当はおおかみさんもやさしいんだな。
	T：心のノートを読みます。 T：「親切にしてもらったこと」「親切にしていきたいこと」を書きましょう。＜プリント＞ C：持久走をしてつまずいた時に転びました。保健室に連れて行ってもらって、とても嬉しかったです。 C：お年寄りや体の不自由な人に親切にしたいです。 C：泣いている友達がいたら「どうしたの？」と声をかけたいです。
終末	T：体の不自由な人が入るとき、ドアを開けていた子がいました。うれしい気持ちになりました。

⑧板書

⑨成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

・児童の普段の言動では表出されない部分や学校外での様子を把握することができた。また、個々の児童が思いやりや親切にしたい気持ちをもち、それを様々な面で生かしたいという気持ちを感じることができた。

【発問構成の工夫】

・児童の実態調査を基にして、発問構成を行ったことで、思いやりや親切について、自分との関わりで道徳的価値を捉え、道徳的価値の自覚を深めることができた。

【学習活動の工夫】

・役割演技では長いすを一本橋に見立て、実際に抱きあげて渡らせてもらうことにより、演じた児童が気持ちを言いやすくなった。

・心のノートの絵や言葉を活用したことで、自己への振り返りがしやすくなり、ワークシートへの記入もスムーズであった。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握】

・調査をした時と授業後で、数名の児童に変容が見られた。授業のどの場面において、児童がどのような発言やつぶやきをしたのか、研究対象児を決めて、授業中、あるいは授業後の変容を見とることができた。

【発問構成の工夫】

・おおかみが橋を渡った時と見送った時では、気持ちが違うので発問を吟味し、精選する必要があった。

・場面絵のおおかみの表情の変化に着目させて、発問を行うようにすると、登場人物の気持ちになって、考えたり話せたりでき、更に多様な反応が見られた。

【学習活動の工夫】

・日常から「ありがとう」「どういたしまして」が言える環境づくりを行うことが大切である。

・役割演技では、演技を見ている児童に対して、どのような視点で見ればよいのか指示すればよかった。

・ワークシートに書かせる際には、1 年生の児童の発達段階を考え、やってきたことを書かせ、書いたことをペアで意見交換を行うとよかった。

Ⅵ　研究の成果と課題

成果

（１）　基礎研究

・道徳的価値を自覚させる学習指導過程の分析、関わりについての研究を学習指導要領・参考文献・先行研究を基に考察し、研究員間で共有化したことで、児童の自己の生き方についての考えを深め、未来への夢や希望につながる授業を工夫し、実践することにつながった。

・教師の指導観を明確にした授業構成と児童の実態を有効に生かす授業を展開することができた。

（２）調査研究

・東京都教育ビジョン（第三次）に記された「将来の夢や希望がもてない児童の実態」を研究員の学級の児童の実態と照らし合わせて具体的な数値として把握することができた。成長とともに様々な自己像を描いている反面、自己を正しく理解できていない実態も明らかとなった。自己や他者を肯定的に受け止めることが、将来の夢や希望をもつことにつながることが明らかになった。

（３）授業研究

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

・ねらいとする道徳的価値について児童が現在どのような状況にあるのかを把握することにより、本時のねらいを焦点化することができた。また、児童の実態に即した発問構成をしたことで、関わりを豊かにすることにつながった。

・日々の行動観察では把握できていなかった児童の実態を、詳細に把握することができた。

【発問構成の工夫】

・児童の実態に即して、授業者の意図を明確にした発問構成をしたことにより、自分との関わりで道徳的価値を捉えさせることにつながり、児童の道徳的価値の自覚が深まった。

【学習活動の工夫】

・関わりを豊かにし、多様な感じ方・考え方を捉えさせるために、話合いカード、ハンドサイン、相互指名、役割演技を行ったことは有効であり、自分との関わりで道徳的価値を捉えさせることにつながった。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査について】

・実態調査をさらに有効活用する方法を模索していく必要がある。

【発問構成の工夫】

・明確な指導観をもち、児童の実態により即した授業展開を構成していたとしても、実際の授業において、指導者の意図した発問と児童の反応に差異を感じることがある。その際は、授業中の児童の反応に応じた適切な補助発問を考える必要がある。

【学習活動の工夫】

・ハンドサインや相互指名等は「使いたい」、「話し合うのに有効だ」と児童自身に実感をもって理解させることでより生かされる。取り入れる際には、指導者がその手法を価値付けるとともに、児童一人ひとりがハンドサインや相互指名を使いたいと思わせる必要がある。

平成 25 年度　教育研究員名簿
小学校・道徳

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	九　段　小　学　校	主任教諭	春原　裕太
中　野　区	鷺　宮　小　学　校	主任教諭	◎　村上　桂一郎
北　区	西 浮 間 小 学 校	主任教諭	宮野　正則
練　馬　区	中 村 西 小 学 校	主任教諭	伊藤　治郎
江戸川区	葛　西　小　学　校	主任教諭	遠藤　信幸
江戸川区	中 小 岩 小 学 校	主任教諭	村松　美智子
八王子市	横　川　小　学　校	教諭	吉岡　奈緒
昭　島　市	東　　小　　学　　校	主任教諭	高橋　晶子
調　布　市	杉　森　小　学　校	主任教諭	澤田　敏夫
日　野　市	滝　合　小　学　校	主幹教諭	○　日高　玲子
羽　村　市	羽 村 西 小 学 校	主任教諭	杉森　祥吾
西東京市	谷 戸 第 二 小 学 校	主任教諭	梅井　洋子

◎世話人　○副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課　　指導主事　二ノ宮　正信

同　　指導主事　土 屋　秀 人

平成２５年度

教育研究員研究報告書

小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録
平成２５年度第１９３号

平成２６年　３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８３６
印 刷 会 社　昭和商事株式会社